

雨乞い踊りと磨崖仏の里

# 小坂を歩こう・さんぽ道

## MAP



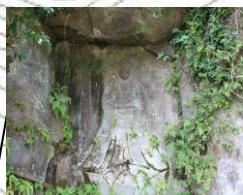
⑨ここから1k先に小坂  
雨乞い踊りの発祥地、  
諏訪神社(明神さん)  
がある。



①野辺田観音堂



②六地藏・2つ有る



③北側・磨崖仏



⑧かさ志めさん

岩下

川久保

岩野川

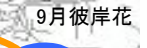


国道3号線

下小坂



下小坂公民館



9月彼岸花



小坂公民館



庄屋村



白坂

野辺田

現在地



おさか童墓

旧道

5月ホタルの乱舞

胡麻野

パワースポットの  
中心、願い事をす  
れば叶うかも？

小坂川

のべたばし

金堀

かねほりばし



至ル山鹿



④南側・磨崖仏

石切り場  
柳井寺跡



⑤熊野座神社



⑥小坂六地藏



⑦小坂城址



⑩ここから1k先に百塚がある。

至ル三玉

山鹿市小坂地区

200 m

三岳校区地域づくり協議会

磨崖仏コース(2km) ①②③④⑤



## ① 野辺田観音堂（柳井寺）



国道 3 号線金堀バス停より橋を渡り 300m行き、左折し、のべた橋を渡る。突き当たりを右折すると左手の上にある。本尊は聖観音坐像菩薩、地元の人から野辺田観音さんとして親しまれ、山鹿観音巡り、33 箇所 の 12 番所になっている。

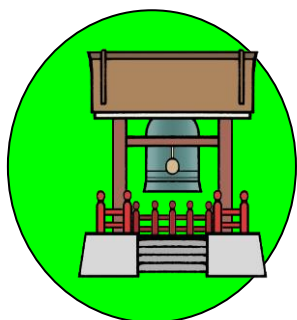
また、村の中にあつた六地藏 2 基が道路拡張工事等に伴い、観音堂敷地内に移設、設置されている。

### 観音様は、三十三身に姿を変えてご利益をくださいます。

巡礼とは、法華経の中の観音経に「観音様を信仰すれば、どんな苦難も逃れられ、どんな福德も受けられる」と言うことが説かれていることに由来します。観音様は、三十三身に姿を変えて各所に現れ、利益が行き届く様にして下さると説かれています。

山鹿の三十三箇所観音巡礼は、江戸時代後期に長源寺（さくら湯のそば）近くの山下安之助が始めました。豊かな自然と史跡に恵まれ、温泉が湧く山鹿・・・山鹿には、三十三の観音堂が各所に点在し、古くから人々の信仰を集めてきました。今、山鹿の三十三観音巡りが静かなブームになっています。三岳にも三つの観音堂があります。心が癒される静かな時を過ごす、あなたも如何ですか。

### 柳井寺跡



現柳井寺向かい側の山、石の祠に地藏さんが祀ってある。その付近の畑や杉山一帯におびただしい数の五輪の塔があり数箇所に寄せられたりしている。

天台宗の末寺で平安時代の後期から、鎌倉時代、南北朝、室町時代と永い間栄えてきた。

何故、廃寺になったか理由は分からない。

その後、今の場所に移され地元の人に野辺田観音堂として親しまれている。

## ② 六地藏

### 地藏菩薩とは

お釈迦様の入滅後、弥勒（みろく）仏の出生するまでの間、無仏の世界に住して六道の衆生（しゅじょう）を教化、救済すると言う菩薩。像は一般には、左手に宝珠、右手に錫杖（しゃくじょう）を持つ比丘（びく）形で表される。日本では平安時代より盛んに信仰される様になった。

衆生・一切の生き物 比丘・修行僧

### 六地藏とは

六道において衆生の苦悩を救う  
と言う6種の地藏菩薩

- 1・地獄道を教化する・檀陀
- 2・餓鬼道を教化する・宝珠
- 3・畜生道を教化する・宝印
- 4・阿修羅道を教化する・持地
- 5・人間道を教化する・除蓋障
- 6・天道を強化する・日光



地藏菩薩の6分身を言う、生前の行為の善悪のいかんによって人は死後に六道の迷界を輪廻転生するといわれるが、それぞれに衆生救済のために配される6つの地藏。地獄に落ちた者までも救済するという菩薩様です。

### ためになる話



赤い帽子やよだれ掛けをしたお地藏様を見ることがありますが、……あれは子供を亡くした母親が自分の子供が地獄から浄土にいけます様にとお祈りをする時に着けるものらしいです。仏教では、子供が親より先に死ぬことはどんな事情があれ、なによりも罪深く、死んだ子供は地獄に落ちるとされています。

今とは違い本気で仏教を信じていた時代、親の気持ちはどうだったでしょう、地獄に落ちた子供を救いたい、その一心で祈る親の姿が目には浮かびます。

地藏様はそんな願いを聞いてくれる、ありがたい仏様なのです。

地藏菩薩は道祖神でもあり村の入り口や境に建てられ、悪霊や、はやり病が入るのを防ぎ、村人を見守っている。二つの六地藏は村の中にあつたものを野辺田観音堂に移設されたものである。



## 小坂の宝・磨崖仏 (まがいぶつ)

### ③ 北側崖にある磨崖仏



磨崖仏とは、岸壁に直接掘られた仏像。日本で最も早い例は奈良時代(778年)の奈良県の崖に彫られた観音像とされている。規模の大きい物が多かったが鎌倉時代以降は小さくなった。小坂の磨崖仏は20mの岩壁に3m程の菩薩が彫られ、見事なものである。

状態も良好で朱色の宝珠がはつきり見られ全体に彩色されていた地蔵菩薩と思われる。熊本でも珍しく、小坂の宝である。

寛政元年、江戸後期(1789年)の銘記がある。

### ④ 南側崖にある磨崖仏



北側磨崖仏の向かい側の崖にも磨崖仏がある。状態は、良くないが近くで見ると仏像が彫られているのがはつきりとわかる。日本昔話のテレビで放映された「きつねの道おくり」という民話が伝えられている。



## きつねの道おくり



小坂川の下流に近く、野辺田へ行く橋がある。この橋の上に石切り場がある、この石切り場付近を「おせんじょ」と呼ぶ。ここには昔「おせん」と、云うキツネがすんでいたからである。

その頃、桑津留に米さんと云う一寸気の弱い人が住んでいた。ある日の夜遅く一杯気分で土産をぶら下げて、通りかかったのが、おせんじょ、中程まで来ると、後ろから足音が着いてくる。

米さんが止まると足跡も止まる。米さんが歩き出すと、足音も歩いてくる……ここはおせんじょ。と思ったら背筋に水をぶっかけられた様な気がしてきた。それからと言うものはどこをどう歩いたかもわからない。泥だらけで家に帰った。

家に着いたら、土産の重箱の中は、スッカラカンだった。でもキツネに騙されたと言えば人に笑われるからだまっていた。

幾日かたって、あさっては12月1日で小坂祭りと云う日のことである。

米さんのおかみさんは山鹿まで買い物に出かけた。押しかけた買い物客のために帰りが遅くなった。もう日もすっかり暮れていた。

でも、かねがね気の強いおかみさんのこと、キツネなんかには騙されんぞと、思っておせんじょ、まで来ると後ろから何かついて来る。目の前を何か横切った、「きたな」と思うと買い物籠がぐい、と引っ張られた。

さすがのおかみさんも、サッと血の気が引いた。祭りの買い物を取られ家の前でダウン、そうなると村じゅう、キツネの道おくりで持ち切りになり、遂にはキツネ退治がまとまり、団子に毒を入れてキツネを退治することになった。

キツネ退治が行われた翌朝キツネの穴の前に行くと、やせた母ギツネと二匹の子ギツネが、涙を流して重なって死んでいた。食べ物も少ない岩場、子ギツネを育てるため仕方なく村人をたぶらかしていたのだった。哀れに思った村人たちは、石切り場の岩壁に観音さんを彫ってキツネの供養をしたと言う。

それから何百年もたちました。今でも、おせんじょ、の石切り場には、観音様が残っている。そして、道行く人を見守っている。享保15年8月(1730年)と、彫ってある。





⑤ 熊野座神社（くまのにます神社）



**熊野座神社**

全国に4000社ある。熊野三山（本宮大社、速玉大社、那智大社、）のご祭神を勧請したのが熊野神社、神祖（伊弉諾ミコ）を主祭神としている。熊野は女神、伊弉諾ミコが葬られた地であり古来より山岳信仰の修験の霊場でもあった。これらのことから熊野は聖地と見なされ貴族や武士だけでなく民衆の間にも信仰が広がり全国に熊野神社が建てられた。縁結びや子授け、農林水産業の神としてご利益がある。鎌倉時代の創始と伝えられる。



**氏神・産土神が守り神**

地元の神様は、その土地で生まれたり、その土地に住んでいる人たちを守護している。地元の神様とは、氏神様のことである。また、自分が生まれた土地の神様のことを「産土神」（うぶすながみ）と言う。住所が変わろうと産土神は一生変わらず産土神のままである。そして転出先の神が氏神様になる  
熊野座神社（くまのにます）神社  
現在は熊野本宮大社と言う。

「神は人の敬いによりて威を増し、人は神の徳によりて運を添う」

と言う言葉がある。つまり、神様と私たちの関係はどちらからの一方通行でなく、おたがいがお互いを高めあってこそ有意義なものになるということである。神様との信頼関係があつてこそ、ご利益を授かるのだ。

氏神様に対し、日頃から感謝や崇敬する気持ちを持って接し、私たちの神様のパワーを高めましょう。

## ⑥ 小坂の六地藏（市指定文化財）



小坂の熊野座神社下にある六地藏は鎌倉時代（1478年）に建てられている。往時は小坂の旧道に沿っていた地点で交通の要地であった。

高さ1m80cm、見事なものである。石塔上部の六面に地藏が彫ってある。

5百年に近い年月を風雨に耐えて立っているもので、山鹿地方でも数少ない銘記のはっきりしている六地藏である。昭和50年2月、市指定文化財となった。人は死ねば六道の中の一つの世界に生まれ変わり、それぞれの因果応報を受けねばならないが、地藏菩薩を信仰し供養すれば、それぞれの地藏が出現して済度（救う）すると言われ、この信仰の証のため建立された。

## ⑦ 小坂城址（菊池一族の中世の城跡）



小坂川の支流白坂川の南側大地上に、泉八郎の居城であったと伝えられる城跡がある。北側は凝灰岩の絶壁で南側は震岳に続く山地、現在は雑木林となっているが頂上は平坦で、馬の調教場であったという段くだりの帯状の平坦地と、掘割りだったらしい所がある。中心地点と思われる場所には「菊池大神」と書かれた石碑が建てられている。

### **菊池大神碑に書いてあること**

菊池氏 25 代頼隆公の嫡子、泉八郎、肥前勢と合戦に及び数箇所手負いご切腹、墓は小坂平原にあり。泉八郎殿嫡子、本田市衛門殿、加藤清正公に従い朝鮮国に渡り手柄あり知行 250 石拝領し以後浪人となり、この地に代々庄屋を勤めるなり。明治 36 年 11 月この碑を建立

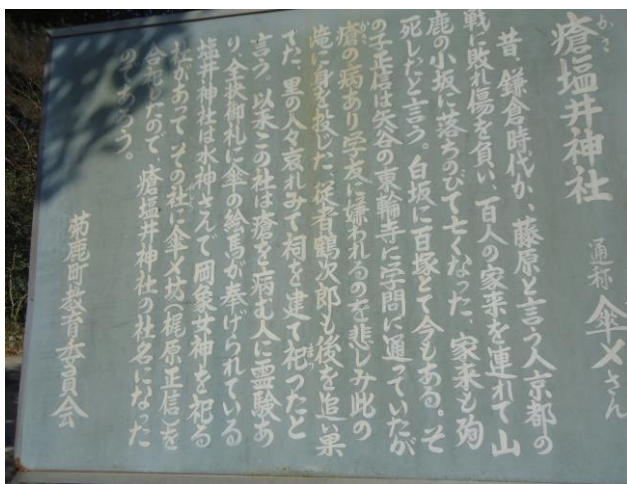


⑧ かさ志めさん



かさ志めさん

本来の名はかさ志め宮だが地元の人には、かさ志めさんと呼ばれ親しまれている。本宮は、菊鹿町にある、瘡塩井神社 (かさしおい) である。皮膚病の神様として信仰されている。ここにお参りすると、瘡がたちまち直つたと言う。完治した後、傘の絵馬を奉納する。今は岩下の西嶽さんが管理されている。



瘡塩井神社 (本宮) の案内板

小坂に落ちのびて亡くなった、藤原氏の子正信は、矢谷の東輪寺に学問に通っていたが瘡の病を学友に嫌われ神社裏の滝に身を投げた。里の人々は祠を建て祀つたと言う。以来この社は瘡を病む人に靈験あり全快御礼に傘の絵馬が奉納されている。(菊鹿町)

何故？小坂の岩下にお社があるの・・・？

ある夜のこと、岩下の西嶽家の先祖、源四朗という人の夢枕に現れた少年正信は「私は小坂の者、小坂に帰りたい」と、言った。

源四朗は正信の霊を迎え、自分の宅地の一部の場所に正信を祀った。今はもう瘡で悩む人はいないが、アトピーに悩む人が時々お参りに来られるそうだ。



何故！傘？傘と瘡の語路合わせ



## ⑨ 諏訪神社（明神さん）

### 小坂雨乞い踊り（市指定無形文化財） 発祥の里



標高 648mの西岳の山頂に、お池さん、と呼ばれている池がある。役 10 アール程の池で年中水の絶えることがない、このお池さんの水が谷水となって流れる山裾に諏訪神社がある。

霊験新たな水神で昔は白蛇が棲み、頂上の池まで登り棲んだと伝えられている。

この明神さんに雨乞い踊りを奉納して降雨を祈願していたもので、遠くは八女郡からも祈願が絶えなかった、拝殿に飾られた幾多の絵馬が物語っている。

踊りそのものは単純素朴、ひょうたんと団扇を手にし、天を仰ぎ地に伏して祈る動作の繰り返して、鐘、太鼓、横笛、があり勇壮活発、輪を描いて、生きいきと、大喜びで踊る。

原型は服装も雑多で、決して統一されたものでない所が特徴で、野良着のまま駆けつけて踊りまくった様だ。発祥は伝説によると室町時代の中期と言われ念仏踊りの形を変えたものであろう。昭和 45 年 12 月 24 日、山鹿市指定無形文化財になった。

## ⑩ 白坂の百塚



鎌倉時代京都の藤原と言う人が戦いに敗れ、傷を負い百人の家来を連れて白坂に落ち延びて来た。

しかし、戦いの傷が原因で亡くなった。百人の家来も殉死した、残った女、子供達、村人はここに百塚を作り供養したと言う。

今は何も残ってなく畑になっているが百塚と言う地名が残り、里の人に語り継がれている。

かさ志めさんに祀られている祭神はこの藤原氏の嫡子、正信である。